

## 平成 29 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	東京大学医学系研究科健康科学・看護学専攻 (応募時)	職名	博士後期課程 (大学院生) (応募時)	助成金額	200,000 円
氏名	安藤絵美子		印		
研究や活動等のテーマ (申請書に記入した内容を記入すること。)					
労働者の健康格差解消に向けた緩衝要因を探る：大規模データを用いた非正規雇用の健康影響および予防行動の実態研究					
助成金の使用実績の概要 (日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。)					
<p>本研究テーマでは、パート・アルバイト、派遣社員などの非正規雇用が、労働者にもたらす健康影響の解明、特に健康診断とがん検診受診への影響を、日本の大規模データを用いて検討した。</p> <p><u>研究 1. 理由別に見る、非正規雇用と健康診断未受診の関連</u></p> <p>平成 25 年国民生活基礎調査を用いて (解析担当は利用権限を有する共同研究者)、勤め先において一般健康診断を受ける権利を有する非正規雇用労働者が、正規雇用労働者に比べて健康診断未受診となるオッズ比をロジスティック回帰分析で求めた。その結果、非正規雇用の場合、特に「時間がない」「お金がかかる」「必要性を感じない」「健康に自信がある」「いつでも病院を受診できるから」「めんどろ」等の理由で未受診となることが確認され、そのオッズ比は間接雇用である派遣社員で就労している場合、特に高かった。事業所もしくは派遣元の労働安全衛生制度周知の不徹底、非正規雇用労働者のヘルスリテラシーの問題、さらに、非正規雇用という不安定雇用で生きることでエネルギーを消耗し、予防行動まで取れない労働者がいる可能性が浮き彫りとなった。</p> <p>また、企業規模が 300 人未満の場合、雇用形態を問わず健診未受診となる可能性が併せて示されている。本研究は、英語原著論文とし、現在英文誌に投稿中である。</p> <p><u>研究 2. 非正規雇用とがん検診未受診の関連</u></p> <p>同様に、平成 25 年国民生活基礎調査を用いて、非正規雇用労働者のがん検診未受診の実態を解析した。非正規雇用労働者は、正規雇用労働者に比べ、対策型検診である胃がん、肺がん、子宮がん (子宮頸がん)、乳がん、大腸がんの検診未受診オッズが高いことが明らかになった。これらの結果について、2017 年 8 月に World Congress of Epidemiology で報告 (口演) した。さらに、現在英語原著論文として、英文誌に投稿準備中である。また、本研究テーマについては、日本がん登録学会にて情報収集を行い、その成果を論文に反映させた。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 第 26 回日本がん登録協議会学術協議会へ参加し情報収集 (参加費、宿泊費及び交通費等) : 57,360 円</li> <li>- World Congress of Epidemiology へ参加し発表 (参加費、宿泊費及び交通費等) : 141,290 円</li> <li>- 書籍・文具購入 : 1,350 円</li> </ul> <p>以上</p>					
助成金を使用した成果に関する発表 (インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。)					
Ando E, Kachi Y, Kawakami N. The association of non-standard employment and non-utilization of cancer screening in Japan: Findings from a nationally representative data. World Congress of Epidemiology, International Association of Epidemiology, 2017 August, Omiya Japan. (Oral presentation)					